

THE QUILTER OVERDRIVE 202

取扱説明書 Ver1.0



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL: 0476(89)1111 FAX: 0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

目次

安全上の注意.....	3
はじめに.....	4
製品仕様.....	4
開梱.....	5
各部の名称.....	6
DAW や PA ミキサーに接続.....	11
トラブルシューティング.....	12

安全上の注意



このラベルがある部分には手を触れないでください。感電の恐れがあります。



このラベルがある部分の操作、メンテナンスを行う場合は関連するマニュアルをお読みください。

1. 感電防止のため、カバーを開けないでください。
2. 本製品に液体がかからないよう、また雨中や湿度の高い場所で使用しないでください。
3. 通気口の前に設置しないでください。
4. ヒーター、ストーブなど、高温になる物の近くに設置しないでください。
5. アースピンをカットするなど、電源プラグを改造して接続しないでください。
6. 電源ケーブルは、踏まれたり挟まれたりすることのない場所に設置してください。
7. 付属品やアクセサリはメーカーから提供される物をお使いください。
8. 落雷の危険性がある場合や、長期間使用しない場合は、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
9. 本製品を廃棄する場合は、その市町村のルールに従ってください。
10. 通気性の良い場所に設置してください。
11. 本体を拭くときは乾いた布を使用してください。

はじめに

この度は、QUILTER OVERDRIVE 202 をご購入いただき、誠にありがとうございます。
OVERDRIVE 202 は、伝説の名機とよばれるアンプからインスピレーションを得たドライブ
セクションによる、多彩なオーバードライブトーンを提供するアンプです。本製品の性能を
最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ず
お読みください。

製品仕様

電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	300W
入力	モノラルフォン、2M 入力インピーダンス、 1.5-5V ピーク(EQ)
エフェクト・センド	モノラルフォン、1V フルスケール、1k Ω (FX Send lift)
エフェクト・リターン	モノラルフォン、1V フルスケール、47k Ω
シグナル出力(PRE)	バランス TRS フォン、40 Ω /ライン、2V フルスケール
ヘッドホン出力(POST)	ステレオフォン、40 Ω /チャンネル、0 - 6V ピーク
スピーカー出力 (8 Ω) (4 Ω) (8+8)	200W 定格
フットスイッチ	RJ-45(CAT5、6、7)、電圧コントロール
寸法(WxDxH)	218mmx185mmx64mm
重量	1.8kg

開梱

製品パッケージに次の項目が含まれていることをご確認ください。

1. QUILTER OVERDRIVE 202 本体
2. 電源ケーブル

輸送時の破損がないことを確認してください。万一破損が確認された場合は、配送業者と発送元に連絡ください。

製品の外箱と梱包材は保管しておいてください。輸送時に破損が生じた場合の証明として必要となることがあります。

各部の名称



VOICE(①)

よく使用する3種類のアンプ・プロフィールを選択することができます。

1(フラット)

初期のアンプに見られる音質です。明瞭さを出すために音に「きらめき」を追加しています。楽器の原音をそのまま再現し、十分な温かみとギタースピーカーらしい音質を持ちます。

2(ベル)

ハーモニクスを強調することにより、ベルのような輝きを持ち、クリーンとオーバードライブ、両方とも忠実に再現します。さらにコードを明瞭に再現します。

3(クラシックメタリック)

迫力のある鋭い高音、引き裂くようなクラシックロック・ギターサウンド、ハイゲイン・アンプから出るようなスラッシュ・オーバードライブを再現します。

INPUT(②)

ハイ・インピーダンス入力端子です。ギターを接続します。

FX SEND(③)

ポスト・オーバードライブ信号を外部エフェクターに送ります（およそ 1V ピーク値）。スタジオで聴くような甘めのサウンドをクリーンとオーバードライブ両方に付加します。

FX RETURN(④)

外部 FX 信号を戻します。外部トラック信号や外部音源を再生するときにも使用します。出力レベルは 6dB ドロップしてヘッドルームに余裕を持たせます。音量は音源側で調整します。リバーブ (⑭) は外部トラックとエレキギターにそのままかかります。マスターを使用してミックス全体の音量を調整します。FX SEND (③) にダミープラグ (オープン回路) を挿し込むと、プリアンプが切れて FX RETURN のインピーダンスが 47k になります。通常の FX SEND FX RETURN のループと同じ回路です。

SIG OUT(⑤)と PRE/POST スイッチ(⑥)

スイッチを PRE に切り替えると、SIG OUT はマスターボリュームの影響を受けません。ミキサーなどへのライン出力として使用できます。

POST に切り替えると、マスターボリュームにより音量を調整できます。ヘッドホンモニターなどに使用できます。内部のスピーカー・シミュレーター・プロセッシングによりライン出力とヘッドホン出力は、一般的なギタースピーカーと同じようなトーンになっていて、ステージでのモニターやホームスタジオでのレコーディングなどに最適です。

※本機にはミュート機能がありません。POST の位置で、スピーカーからの音を遮断してヘッドホンを使用するためには、スピーカーを外す必要があります。

OVERDRIVE CHANNEL(オーバードライブチャンネル)

GAIN(⑦)

ボリューム 0 から 3 レベルの位置は、キーボード、ミキサー出力、外部プリアンプなどの出力に最適です。5, 6 のレベルでは、ギターピッキングの強さやアタックによりオーバードライブの量を増やします。

OUTPUT(⑨)

予めクリーンチャンネルに設定したマッチングレベルにオーバードライブレベルを設定することができます。オーバードライブチャンネルを使用するとき、クリーンゲインはバイパスされ、オーバードライブチャンネルからの出力に影響しません。

※クリーンサウンドを最初に設定し、次にオーバードライブゲインを調整してください。バランスが取れたとき、マスターボリュームにより全体の音量を調整してください。

OD スイッチ(⑩)

オーバードライブチャンネルに切り替えます。このスイッチは **Quilter** フットスイッチをリアパネルの RJ-45 端子に挿し込むとバイパスされます。

LIMITER(⑧)

信号のピークをコントロールします。出力レベルをモニターし、オーバードライブがききすぎないようにゲインをコントロールします。ピークが下がったときはゲインを自動的に戻します。ゲインを高く設定するとピーク時にサステインが働き、通常のブレイクアップ前のソフトクッションとして作用します。

LIMITER を 3-4 に設定すると、信号のピークより上の信号に制限をかけます。5 より上に設定すると、ブレイクアップポイント以上の信号に制限をかけます。LIMITER はフィルターとは違い、音質を保ったまま、リミットをかけます。その動作は繊細で十分なゲインを保ったまま信号を通します。効果を確認するにはハイゲインでリミットを低く設定します。リミッターは緩やかな信号の変化には効果がありません。ブレイクアップ前のピークに対してのみ影響があります。

CLEAN CHANNEL GAIN(⑩)

クリーンまたは少しオーバードライブをかけた演奏に使用します。

3 バンド EQ(⑪、⑫、⑬)

BASS、MID、TREBLE の3つのトーンコントロールがあります。

トーンを調整するとき、最初に BASS、MID、TREBLE 全て「5」の位置に合わせてください。
この設定はほとんどの楽器に適用できます。

- BASS : 0~8 : 低域を加えます。
8~10 : 高域と低域の間にコントラストを加えます。
- MID: ギターの中音域をカット及びブーストします。
5 以下: しっかりとした明瞭なトーンでリズムプレイに使用される際立ちのある中域を作ります。
5 以上: オーバードライブが作りやすい中域をブーストします。
- TREBLE : 高域を徐々に加えていきます。

これらの設定は全て互いに強く影響し合います。それぞれがトーンに対してどのように作用するか理解するためにコントロールの全領域に渡ってテストすることをお勧めします。

VERB(⑭)

本製品は特別に設計したアナログボイスを持つリバーブプロセッサを搭載しています。クラシック「スプリング・リバーブタンク」に影響を受けていますが、オリジナルのスプリング・リバーブのような大きさや機械的な不安定さはありません。リバーブはディレイや他のダイナミックエフェクトが追加できるように FX ループの後に位置しています。

MASTER(⑮)

アンプ内のコントローラーで作った音質を変えずに全体の音量 (0~200W) を調整します。

リアパネル

電源コネクター

付属の電源コードを挿し込みます。電源コードにはロックが付いていて、使用中に抜けるのを防止することができます。



SPEAKER

スピーカー出力端子 (4Ω、8Ω、8+8) が用意されています。

4 OHMS : 4Ω スピーカーを 1 台接続します。

8 OHMS : 8Ω スピーカーを 1 台接続します。

8+8 : 8Ω スピーカーを 2 台接続します。

本製品は無負荷、または異常負荷に対して保護回路を内蔵しています。過負荷の状態が長く続いた場合、過熱保護回路により出力を落とします。



FOOTSWITCH (RJ45)

Quilter 互換のフットスイッチを取り付けてチャンネル・スイッチ、リミット、リバーブをコントロールすることができます。

DAW や PA ミキサーに接続

アンプを DAW や PA ミキサーに接続するときは、フロントパネルにある SIG OUT 信号を使用します。PRE/POST スイッチは PRE 側にセットしてください。DAW 側は Line 入力を使用してください。SIG OUT 信号はマスターボリュームの設定にかかわらず、最大 (LINE レベル) になっています。誤ってスピーカーから音がでないように、マスターボリュームはゼロに設定してください。最後に VOICE スイッチから好みのボイスを選択してください。ミキサー側の入力は LINE レベルにセットしてゲインは最小にしてセットしてください。または、LINE 入力専用端子に接続してください。



トラブルシューティング

症状	原因と対策
電源が入らない	電源ケーブルがしっかりとコンセントに接続されているかチェックしてください。
音が途切れる	アンプが過熱しサーマルプロテクションが働いた可能性があります。アンプが冷えると再び音が出ます。 電源 LED が点灯しているのに、音が途切れる場合、各オーディオケーブルをチェックしてください。
音が出ない	MASTER ボリュームと GAIN がゼロになっていないことを確認してください。 ギターケーブルがアンプとギター両端にしっかりと接続されているか確認してください。 ギターケーブルを交換してみてください。 スピーカーケーブルがスピーカー端子にしっかりと接続されているか確認してください。
音が低い、または変動する	ペダルとアンプと切り分けるため、FX Loop に接続したペダルを取り外し、ギターを直接アンプに接続してください。 ペダルの接続、電源、バッテリーをチェックしてください。
バックグラウンド・ハムノイズが出る ギターのボリュームを 0 にすると ハムノイズが消える。	ギターケーブルがしっかりと接続されているかチェックしてください ギターケーブルを交換してください。シールドケーブルを使用してください。 アンプ、ペダルは同じコンセントに接続してください。 シングルコイルピックアップは特に調光式ライト、ネオンライトなどのハムノイズを拾いやすく、注意が必要です。 「フェーズスイッチ」ピックアップ・セレクターがある場合、試してみてください。 ギター・シールドをチェックしてください。 弱いブーンという音がでる場合、アースが接続されていない可能性があります。必ずアースを接続してください。
過度のノイズ	GAIN の上げ過ぎが考えられます。 ケーブル、ギター、ペダルなどの接続をチェックする 繰り返し発生するノイズはスマートフォンから出ている

	可能性があります。スマートフォンをアンプやギターから離してください。
アンプの音がどの音量でも歪む	ヘッドホンで聴いたときに問題なければスピーカーの可能性もあります。 Master ボリュームを下げてください。 エフェクトループに接続されている機材を外してギターを直接アンプに接続してください
クリーントーンが欲しいのに過剰なオーバードライブがかかる	GAIN を下げて Master ボリュームを上げてください。 FX Loop に接続したペダルを取り外し、ギターを直接アンプに接続して問題箇所を確認してください。
十分なオーバードライブが得られない	Master ボリュームを下げて GAIN を上げてください。 LIMIT を下げてください。 全部の EQ 設定が 5 以下の場合、EQ 設定を上げてください。
ヘッドホンから音が出ない	PRE/POST スイッチを POST 側に設定してください。

次の事象が発生した場合はコンセントから電源ケーブルを抜いて直ちに販売代理店にご相談ください。

- アンプ、または電源ケーブルから煙りが出た
- アンプを誤って落としてしまった
- アンプに液体をこぼしてしまった
- アンプ内部の部品が外れたような音がする
- 配電板のブレーカーが落ちる